

図書室だより 10月

朝晩の肌寒さに加え、日中も爽やかな風が吹くようになりましたね。先日、夕暮れ時に空を見上げると、一面にうろこ雲が浮かんでいることに気がつきました。みなさんも、たまには周りを見渡して、秋の訪れを感じてみてください。

さて、体育祭も終わり「運動の秋」を堪能した皆さん。次は「読書の秋」ということでゆっくりと本を読んでみてはいかがでしょうか。

図書室の開室時間は毎週月曜日から金曜日の昼休憩（12：45～13：00）と放課後（HR終了後～17：00）です。

ぜひ、足を運んでみてくださいね。

今月号は「図書室だより」作成者である畑中が推薦する図書を紹介します。



野田洋次郎『ラリルレ論』

『ラリルレ論』は、著者である野田洋次郎が、自身の全国ツアー中に執筆した日記をもとに、恋愛観・死生観・音楽や世界で起っている出来事に対する考え・関わってきたすべての人への思いを綴ったエッセイです。

野田洋次郎といえば、今では誰もが一度は耳にしたことのある、“あの歌”の作詞作曲を手がけた方なのですが、ご存知でしょうか。そう、映画『君の名は』の主題歌である「前前世」で人気を博したあのRADWIMPSというバンドのボーカルです。本来なら国語科担当として文学作品を紹介するべきところではありますが、RADWIMPSが再び認知され始めた今だからこそ、そして私自身、RADWIMPSのファンだからこそ、この野田洋次郎の“音楽ではない作品”を皆さんに届けようと思いました。



なにか失敗や間違いが起こった時に誰のせいにもしたくないし、

成功や成就した瞬間はみんなのせいでありたい。

彼が音に乗せる言葉たちはいつもどこか哀しげで、過激で、知的で、まっすぐで、そして歪んでいて……そういった繊細かつ大胆な表現が、聴いている人の心を惹き込みます。それは音のない文章であっても同じです。『ラリルレ論』では、そんな野田洋次郎の綴る日記の中に彼の脳内を垣間見ることができます。この本はある意味で現代の『徒然草』とも言ってもよいほど、徒然なるままに書き進められており、彼の言う「脳内旅行」という言葉がぴったり当てはまることを実感できるでしょう。教訓になり得る言葉や、共感する瞬間に何度も出会います。気になる方はぜひ、読んでみてください。

あわせて、新海誠『小説 君の名は』が図書室に入っています。映像で楽しんだ方もそうでない方も、その世界観を文章で味わってみませんか？



進徳図書室掲示板

今月号では、特別進学コースの1・2年生が取り組んだ『読書会』について取り上げます！

『読書会』では、専門的な内容で“読みにくい”と思われがちの新書を一冊読み切り、その本の内容をわかりやすく伝えるため、1年生は要約を、2年生は要約・POP作りをしました。読書を通じ、知識を深めることはもちろん、文章を構成する力や、“どうすればわかりやすく伝えられるか”と相手の立場で考える力も育まれたのではないのでしょうか。

では、『読書会』の作品を一部ご紹介！

女性チームはセッター思考で輝く。セッターは人のために尽くせる黒子に徹することができる人が向いている。基本的に面倒くさい生き物である女性が良い群れをつくるには、視野を広げ信頼されている人と協力することが大切。そのようにみんなをつなげていくのがセッター。自分が損をする覚悟で人と接し、自分自身を認めること、それがセッター思考である。

そのセッター思考を身に付けるために、竹下選手は打ちやすいトスを上げるためにはどうすればよいか毎日考え悩んだ。初めのうちは面白さもわからなかったと言う。セッターとしてどうあるべきか、チームをまとめるにはどうしたらよいか、毎日必死に考えた成果が今の竹下選手なのである。（中略）

人は誰でも楽な道を選ぶ生き物だ。でもそれは後悔した時に自分を責め、追い込んでしまうだけ。どんなにつらくとも最後に「やってよかった」と思える道をもつことでセッター思考は鍛えられた。「自分はこれだけやった」と自信が持てたからこそここまで来ることができた。後悔しない人生を送るために、人は自分だけの力で生きているのではなく、支えられているということを忘れず、決めたことをやり切る。最後に楽しかったと思えるように毎日を過ごすことが必要であると竹下選手は言った。

人のために尽くすセッター思考は、必ずこれからの人生に役立つ、ためになるものである。

（特別進学コース2年生による 竹下佳江『セッター思考』要約）

何百ページにも及ぶ文章を要約する作業に苦戦したようですが、上手にまとめられていますね。また、POPもイラストや文字の大きさ、配色がよく考えられていて素晴らしいです。

要約は、普段の生活でも皆さんが自然に行っていると思います。たとえば、昨日鑑賞した映画の内容を、観ていない友達に伝える時。まさか、上映時間と同じ時間をかけて、最初から最後まで話す人はいませんよね？皆さんは要約を選び、上手に伝えられているのでしょうか。必要な情報を的確に選択すること、それをまとめることなどは、実はとても難しいことです。皆さんも、本を読んだ際はぜひ、要約に挑戦してみてください。

1年生の様子



2年生制作のPOP

